



東丘小だより

校長 河田 法士

令和6年(2024年)9月30日発行 第7号

学年	1	2	3	4	5	6	計
児童数(9/30現在)	86	98	99	112	118	89	602

『感情を表現する』ということ😊😞😡😢

嬉しいときはその嬉しい気持ちを遠慮なく表現し(^_^)/、悲しいときは精一杯悲しみ(ノド)ソソク…、怒るときは思いっきり怒る(#`Д´)、そして悔しいときは素直に悔しいです!(>_<)と。これは人間として何ら当たり前のことかもしれません。

しかし、先日少し気になる内容を目にしました。誉められると恥ずかしいからやめてほしいという子どもの割合が高くなってきているという話。



ある野球チームの監督が、『ヒットを打ったら思い切って嬉しい気持ちをしっかり表現させてあげてください、そして大人もその気持ちを受容し一緒に分かち合ってください』と。

これも別に当たり前のことですが、実は子どもたちは感情を表現するのははずかしい、というより「どう表現していいのかわからなくて戸惑ってしまう」という割合が高く、中には『相手への礼儀を欠くことがないように』という高尚な教えを受けていてTPOに合ったオトナな?対応がすでにとれる子どももいます。

大相撲では、横綱が優勝をかけた大一番でもガッツポーズは横綱の品位に関わるので相応しくないとの評価を受け、大リーグではホームランを打った時に大げさにガッツポーズをするのはご法度、などなど大人の世界には『不文律』というものがあります。これはあくまでもプロの世界であり、スポーツマンシップやプライドの保持を大切にすることが故のものですが、自由に感情を表現することを憚らなければならないようなクールな環境が子どもたちの周りにあるとしたらいかがでしょうか? (時に大人の応援の熱量が子どもを完全に追い越している場面も多々ありますが…(笑))

喜怒哀楽の感情表現ができるようになると、自分の気持ちを相手に伝えられ、相手の気持ちも理解できるようになります。相手の気持ちを理解できると、感情をコントロールできるようにもなります。友だちが泣いていれば、『悔しくて泣いているのだろう』『悲しいことがあったのだろう』と想像したり、理解したりすることができるようになります。学年が進めば、自分に何ができるだろうか、ということを考えられるようになっていきます。こうして、他人に共感すること、友だちを支援することにつながれば、温かい雰囲気の中で子どもたちは育ち合っている気がします。

まだ記憶に新しいパリオリンピック・パラリンピック。そこで、メダルを期待されていた選手が思いがけない敗戦により感情が溢れてしまったというニュースがありました。

その姿に賛否両論が寄せられました。大会に向けての4年間、苦しい練習に耐え、努力を惜しまず、いろいろなことを我慢してようやく辿り着いた場所だと想像されますが、賛はまだしも否の意見は『同じ道を歩んだことがある人が言うならまだしも、そうでない人があれこれ揶揄しているとしたら、いくら表現や考え方の自由があったとしてもどうなのか?』と個人的には感じました。大人の世界ではTPOも(が)重視されることも多く、その場に応じた対応が必要とされる機会も増えます。また、成長する中で社会性が高まり、感情(起伏)を抑えて裏腹な態度(ポーカーフェイス)ができるようになってくるのも当たり前だと思います。しかし、“子ども”でいることができる間は、できる限り感情や気持ちが素直に表現できる、またそれをタイムリーに受けとめてもらえる、もしくは共感してくれる・気持ちをシェアできる人がいるという安心な環境においてあげる事は大切なかなと思います。決して、何でもかんでも『感情を出そう!思いのままありのままに表現しよう!!』という事ではありません。

うまく表現できないということは、自分の気持ちを相手に伝えられないだけでなく、相手の気持ちを理解することも難しいということです。

相手の気持ちが理解できないと、感情のコントロールもできなくなり、友達関係で悩んだり、精神的に不安定になってしまったりする可能性が高くなります。感情は生きていくうえでも、社会に適應するためにも、非常に重要なものです。(人間だもの@みつ)学校だより6号でも掲載の自己選択、その機会は小さな決断から大きな大英断まで合わせると、1日平均20,000回以上、多い人なら35,000回とも言われています。(個人差はあります)そのこれから次々訪れる数々の自己選択の機会に、自分の軸をしっかりと持ち、結果はどうあれ自分以外の誰かのせいにはしないような選択が出来る、今の子どもたちをそんな人物に育てるという責任が今の大人にはあると考えています。

裏面に、前号と今回の号を作成するにあたり、参考となる資料を掲載しています。データの数値が全てを表しているとは考えていませんが、何らかの傾向は示していると思うので、子どもたちへの教育との相関関係は否めないとは睨んでいます。

『18歳の意識調査』ということは、6年生ならあと6年、1年生に至ってはまだまだ12年ほどあります。

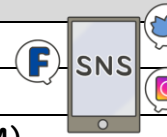
東丘の子どもたちが調査を受けるときには、変わらず全体の平均値が低くても、『その平均自体を上げてやる!』ぐらいの意識を持つ大人になってほしい!と願うばかり…ではなく、学校教育の中でもその成長の一助になれるよう努めていきたいと思っています。



10月の行事予定



1	火		A 週
2	水	委員会④	
3	木		
4	金		SSW10-17
5	土		
6	日		
7	月		B 週
8	火	運動会全体練習	
9	水	全校朝会	
10	木	個人懇談希望調査配布 (全体練習予備日)	
11	金	観覧証・プログラム配布	SSW10-17
12	土		
13	日		
14	月	スポーツの日	
15	火		A 週
16	水	運動会リハーサル 40分授業 13:40下校	SC
17	木	個人懇談希望調査メ切 運動会リハーサル予備日	
18	金	運動会前日準備 1~5年(13:20下校)6年(15:30下校)	
19	土	運動会(AM)	
20	日		
21	月	代日休業日	
22	火	ダイハツ出前授業(5年)	B 週
23	水	運動会予備日(給食あり)	
24	木		
25	金	合同あいさつ運動 40分授業 13:00下校	SSW10-17
26	土		
27	日		
28	月		A 週
29	火	不審者対応避難訓練	
30	水	SNS講習会 連合音楽会(6-1:PM)	
31	木		



【11月の主な予定】

7日(木)芸術鑑賞会	8日(金)人権参観・学級懇談
15日(金)交通安全教室	27日(水)クラブ④